

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 9 月 6 日 (2007.9.6)

【公表番号】特表 2003-506352 (P2003-506352A)

【公表日】平成 15 年 2 月 18 日 (2003.2.18)

【出願番号】特願 2001-514296 (P2001-514296)

【国際特許分類】

C 0 7 C 49/753 (2006.01)

A 0 1 N 35/06 (2006.01)

A 0 1 N 43/08 (2006.01)

A 0 1 N 43/36 (2006.01)

A 0 1 N 43/90 (2006.01)

A 0 1 N 47/12 (2006.01)

C 0 7 C 271/16 (2006.01)

C 0 7 D 307/58 (2006.01)

C 0 7 D 471/04 (2006.01)

C 0 7 D 491/107 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 C 49/753 B

A 0 1 N 35/06

A 0 1 N 43/08 H

A 0 1 N 43/36 C

A 0 1 N 43/90 1 0 2

A 0 1 N 47/12 Z

C 0 7 C 271/16

C 0 7 D 307/58

C 0 7 D 471/04 1 0 4 A

C 0 7 D 491/107

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 7 月 17 日 (2007.7.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

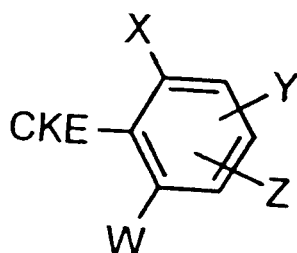
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

式 (I)

【化 1】



(I)

[式中、

Wは水素、ハロゲン、アルキル、アルコキシ、アルケニルオキシ、ハロゲノアルキル、ハロゲノアルコキシ、ハロゲノアルケニルオキシ、ニトロまたはシアノを表し、

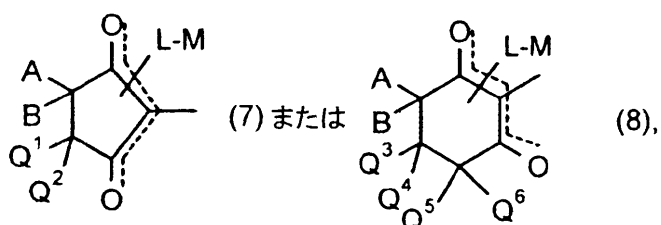
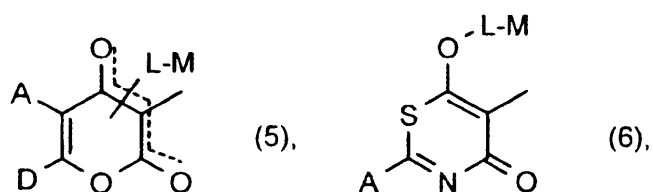
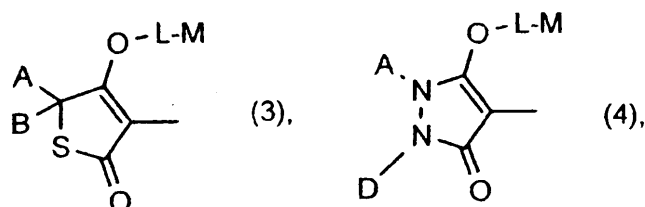
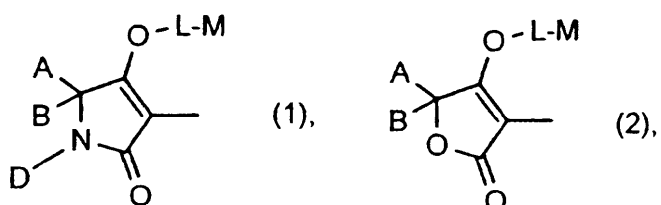
Xはハロゲン、アルキル、アルコキシ、アルケニルオキシ、アルキルチオ、アルキルスルフィニル、アルキルスルホニル、ハロゲノアルキル、ハロゲノアルコキシ、ハロゲノアルケニルオキシ、ニトロ、シアノまたは各場合とも場合により置換されていてもよいフェニル、フェノキシ、フェニルチオ、フェニルアルコキシもしくはフェニルアルキルチオを表し、

Yは各場合とも場合により置換されていてもよいシクロアルキル、アリールまたはヘタリールを表し、

Zは水素、ハロゲン、アルキル、アルコキシ、ハロゲノアルキルまたはハロゲノアルコキシを表し、

C K E は基

【化 2】



の 1 つを表し、

A は水素、各場合とも場合によりハロゲン - 置換されていてもよいアルキル、アルケニル、アルコキシアルキル、ポリアルコキシアルキル、アルキルチオアルキル、場合により少なくとも 1 個の環原子がヘテロ原子により置換されていてもよい飽和もしくは不飽和の場合により置換されていてもよいシクロアルキル、または各場合とも場合によりハロゲン - 、アルキル - 、ハロゲノアルキル - 、アルコキシ - 、ハロゲノアルコキシ - 、シアノ -

もしくはニトロ - 置換されていてもよいアリール、アリールアルキルもしくはヘタリールを表し、

B は水素、アルキルまたはアルコシアルキルを表し、或いは

A および B はそれらが結合している炭素原子と一緒にあって、場合により少なくとも 1 個のヘテロ原子を含有してもよい飽和もしくは不飽和の、未置換のもしくは置換された環を表し、

D は水素、またはアルキル、アルケニル、アルキニル、アルコシアルキル、ポリアルコシアルキル、アルキルチオアルキル、場合により 1 個もしくはそれ以上の環員がヘテロ原子により置換されていてもよい飽和もしくは不飽和のシクロアルキル、アリールアルキル、アリール、ヘタリールアルキルもしくはヘタリールよりなる群からの場合により置換されていてもよい基を表し、或いは

A および D はそれらが結合している原子と一緒にあって、A、D 部分で未置換であるかもしくは置換されており且つ場合により少なくとも 1 個の (CKE = (4) の場合にはさらに) ヘテロ原子を含有してもよい飽和もしくは不飽和の環を表し、或いは

A および Q¹ は一緒にあってアルカンジイルまたはアルケンジイルを表し、それらの各々は場合により各場合とも場合により置換されていてもよいアルキル、ヒドロキシル、アルコキシ、アルキルチオ、シクロアルキル、ベンジルオキシまたはアリールにより置換されていてもよく、或いは

Q¹ は水素またはアルキルを表し、

Q²、Q⁴、Q⁵ および Q⁶ は互いに独立して水素またはアルキルを表し、

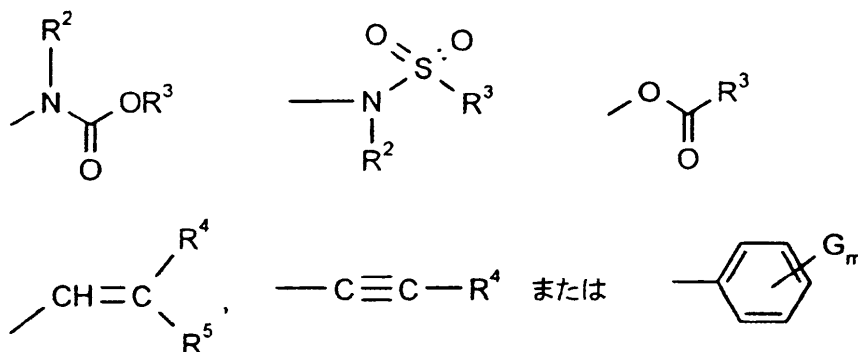
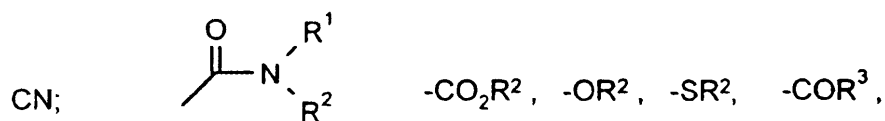
Q³ は水素、アルキル、アルコシアルキル、アルキルチオアルキル、場合により置換されていてもよいシクロアルキル (ここでは場合により 1 個のメチレン基は酸素もしくは硫黄により置換されていてもよい) または場合により置換されていてもよいフェニルを表し、或いは

Q³ および Q⁴ はそれらが結合している炭素原子と一緒にあって、場合によりヘテロ原子を含有していてもよい飽和もしくは不飽和の、未置換のもしくは置換された環を表し、

L はアルカンジイル基を表し、

M は以下の基

【化 3】



の 1 つを表し、

ここで

R¹ は水素またはアルキルを表し、

R^2 は各場合とも場合により置換されていてもよいアルキル、アルケニル、アルキニル、シクロアルキル、アルコキシアリル、アリールチオアルキル、アリールまたはアラリルを表し、

R^3 は場合により置換されていてもよいアルキル、アリールまたはアラリルを表し、

R^4 は水素、ハロゲン、各場合とも場合により置換されていてもよいアルキルまたはフェニルを表し、

R^5 は水素、ハロゲンまたは場合により置換されていてもよいアルキルを表し、

G はハロゲン、アルキル、アルコキシ、ハロゲノアルキル、ハロゲノアルコキシ、シアノまたはニトロを表し、そして

m は数 0、1、2 または 3 を表す]

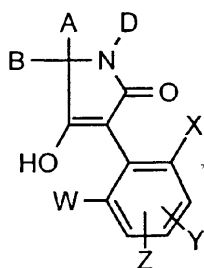
の化合物。

【請求項 2】

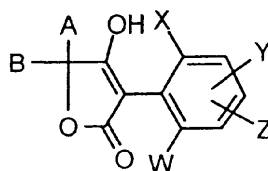
式 (II - 1) ~ (II - 8)

【化 4】

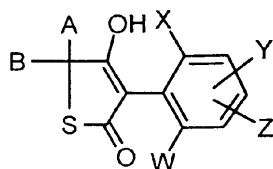
(II-1):



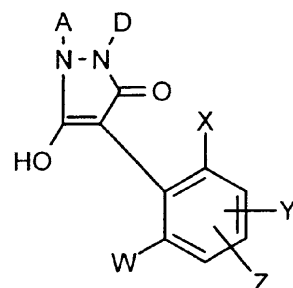
(II-2):



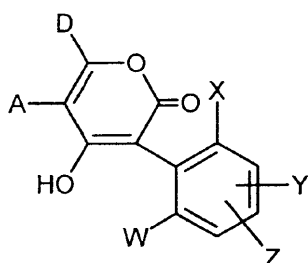
(II-3):



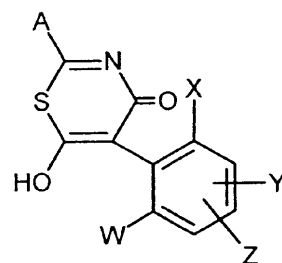
(II-4):



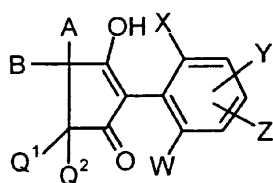
(II-5):



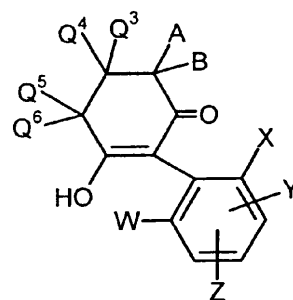
(II-6):



(II-7):



(II-8)



[式中、

A、B、D、 Q^1 、 Q^2 、 Q^3 、 Q^4 、 Q^5 、 Q^6 、W、X、YおよびZは請求項1で定義された通りである]

の化合物を、希釈剤の存在下及び塩基の存在下で、式(III)

J - L - M

(III)

[式中、

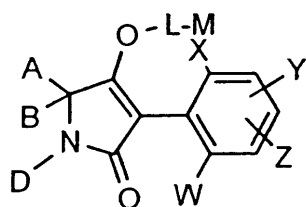
LおよびMは請求項1で定義された通りであり、そして

Jは脱離基、例えばハロゲン、 $-O-SO_2-$ ハロゲノアルキル、 $-O-SO_2-$ アルキルまたは $-O-SO_2-$ アリール、を表す]

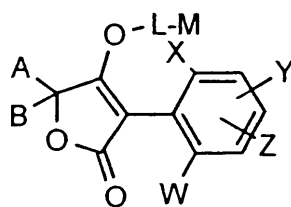
の化合物と反応させる

ことを特徴とする請求項1に記載の式(I-1)~(I-8)

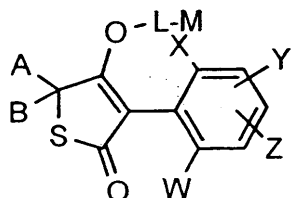
【化 5】



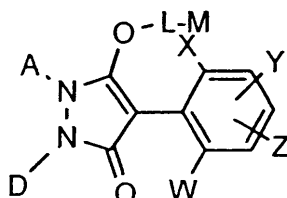
(I-1),



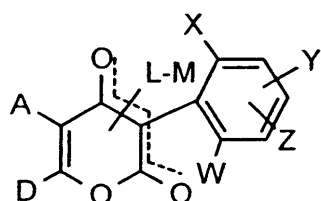
(I-2),



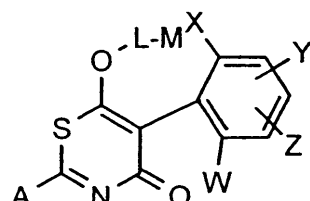
(I-3),



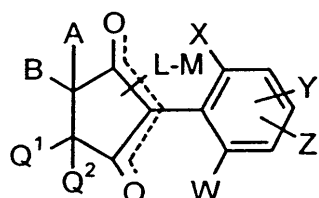
(I-4),



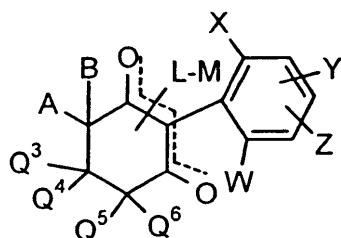
(I-5),



(I-6),



(I-7),



(I-8),

[式中、

A、B、D、L、M、 Q^1 、 Q^2 、 Q^3 、 Q^4 、 Q^5 、 Q^6 、W、X、YおよびZは請求項1で定義された通りである]

の化合物の製造方法。

【請求項3】

請求項1に記載の式(I)の化合物の少なくとも1種を含んでなることを特徴とする有害生物防除剤および/または除草剤。

【請求項4】

請求項1に記載の式(I)の化合物を有害生物、植物および/またはそれらの生息地に作用させることを特徴とする有害生物および雑草の防除方法。